

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

## 5. 精神・行動障害

### 文献

恵川宏敏, 濱口眞輔. 漢方薬の臨床応用 術後認知機能障害 (POCD) に対する漢方薬の応用 高齢者大腿骨近位部骨折の周術期管理と抑肝散. *脳* 2015; 18: 271-4. 医中誌 web ID: 2016024042 [MOL](#), [MOL-Lib](#)

#### 1. 目的

高齢者の大腿骨近位部骨折術後の認知機能障害に対する抑肝散の有効性の評価

#### 2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

#### 3. セッティング

実施施設に関する記載なし (著者はペインクリニック、獨協医科大学医学部麻酔科学講座)

#### 4. 参加者

70 歳以上で大腿骨頸部骨折手術を予定された患者。40 名

#### 5. 介入

Arm 1: 抑肝散 7.5g/日 (メーカー名、投与回数不明) を 7-14 日内服後、手術を施行し術後 3 週間継続して内服 20 名

Arm 2: 非投与群 20 名

#### 6. 主なアウトカム評価項目

評価は認知機能検査 (Mini-Mental State Examination: MMSE) と 3 項目 N 式老年者精神状態尺度 (NM scale: NMS) を組み合わせ、入院日 (術前)、術後 1、3、5、7、10、14、21 日に認知機能の評価を行った。

#### 7. 主な結果

Arm 1 と Arm 2 とともに術後 1 日目は、術前と比較して MMSE は  $3.3 \pm 1.0$ 、NMS で  $5.6 \pm 1.2$  と有意な低下を認めた ( $P < 0.01$ )。術後 3 日目から 7 日目では、MMSE は Arm 1 は Arm 2 と比較して有意な改善を認めたが、NMS は両群間で差を認めなかった。術後 7 日目から 21 日目では、MMSE と NMS とも Arm 1 は Arm 2 と比較して有意な改善を認めた。

#### 8. 結論

抑肝散は高齢者の大腿骨近位部骨折術後の認知機能の低下を抑制した。

#### 9. 漢方的考察

なし

#### 10. 論文中の安全性評価

記載なし

#### 11. Abstractor のコメント

高齢者の認知症患者に頻用されている抑肝散を、高齢者の術後の認知機能低下に応用した興味深い臨床研究である。しかし、短い論文のためか、両群の性別や原疾患などの背景因子の記載、投与方法や脱落者の有無などの詳細な記載がない。また、抑肝散の内服により術後 3 日目から非投与群に比べて改善したとする MMSE に関しては、術後 1 日目にも差があるように見える。この差は術前の抑肝散の内服が影響した可能性があり、より術後の効果を明らかにするためには、術直前の MMSE と NMS の測定が望まれた。しかし抑肝散の大腿骨近位部骨折術後の認知機能改善効果が示唆されるきっかけであったので、詳細を明らかにし実臨床で広く使用されることが望まれる。

#### 12. Abstractor and date

後藤博三 2018.10.1